

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2020年10月～12月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

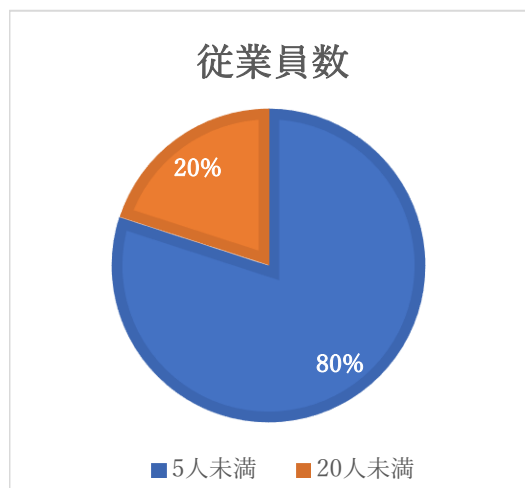
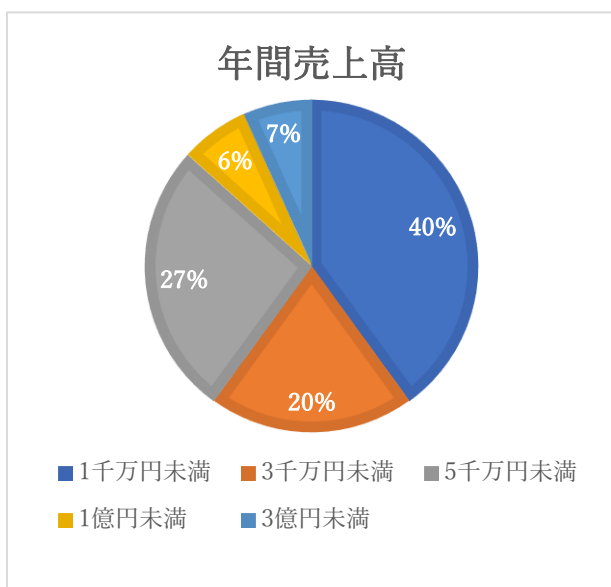
3. 調査事業者

- | | |
|---------------|-----|
| ① 製造業 | 3 社 |
| ② 建設業 | 2 社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 4 社 |
| ④ サービス業 | 5 社 |

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表1：2020年10月～12月のDI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-46.7%	-66.7%	0.0%	-50.0%	-50.0%
販売単価	-20.0%	0.0%	0.0%	-25.0%	-33.3%
経常利益	-46.7%	-66.7%	-50.0%	-50.0%	-33.3%
資金繰り	-13.3%	0.0%	-50.0%	0.0%	-16.7%
人材確保	0.0%	0.0%	-50.0%	25.0%	0.0%
景況感	-53.3%	-33.3%	0.0%	-75.0%	-66.7%

- 全体的に前回（2020年7月～9月）と同様状況は芳しくないが、数値はやや上向きになっている。
- サービス業において、特に状況が緩和されている様子が窺える。
- サービス業、小売業において、長く業績（売上高・経常利益）が低迷していたが、その割に資金繰りに悪影響を与えていない（前回よりDI値が改善）様子が窺える。持続化給付金や特別融資等の新型コロナウイルス対策の支援策が一定の成果を实らせていると想定できる。

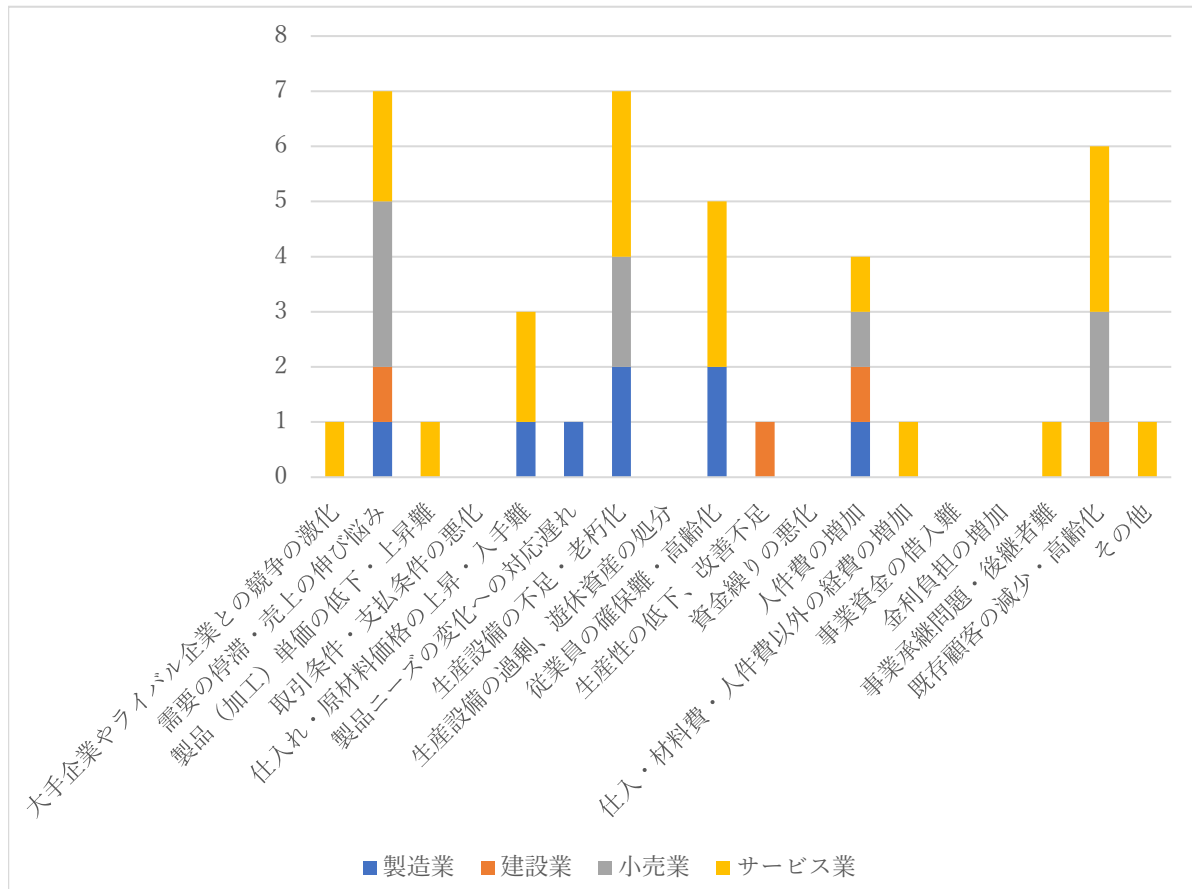
DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 課題意識調査

図1 2020年10月～12月の課題意識



- 前回と比べ、小売業を除き、需要・売上の低迷は一段落した様子が窺える。
- また、競争はさらに緩やかになっている。
- 設備の不足・老朽化が、製造業、小売業、サービス業で顕著になっている。
- 製造業・サービス業での従業員の確保難・高齢化が前回より増加している。
- また、全業種で人件費負担が増大している様子が窺える。人件費を抑制するため、設備増強や人材の若返り等による労働生産性の向上を志向している可能性も考えられる。
- 前回より小売業において顧客の減少・高齢化が徐々に増えている。コロナ禍で来店客数が減っている様子が窺える。

III. 新型コロナウイルス感染拡大の経営への影響

図2 コロナ禍による経営の悪化の推移

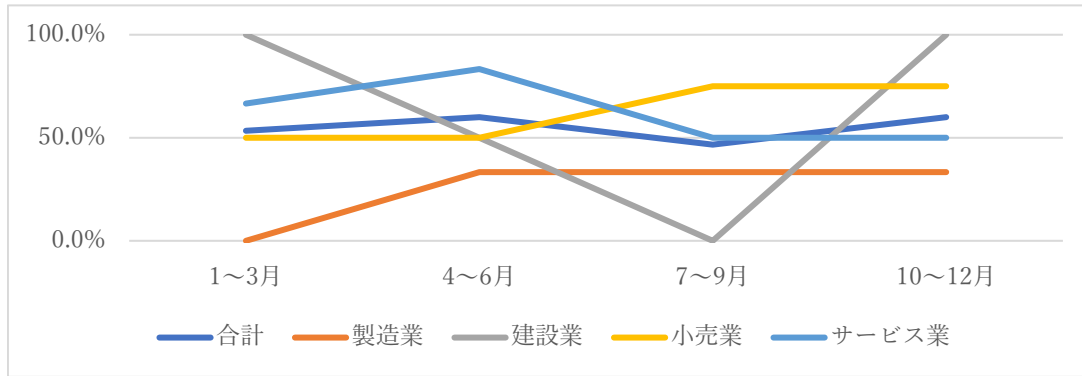
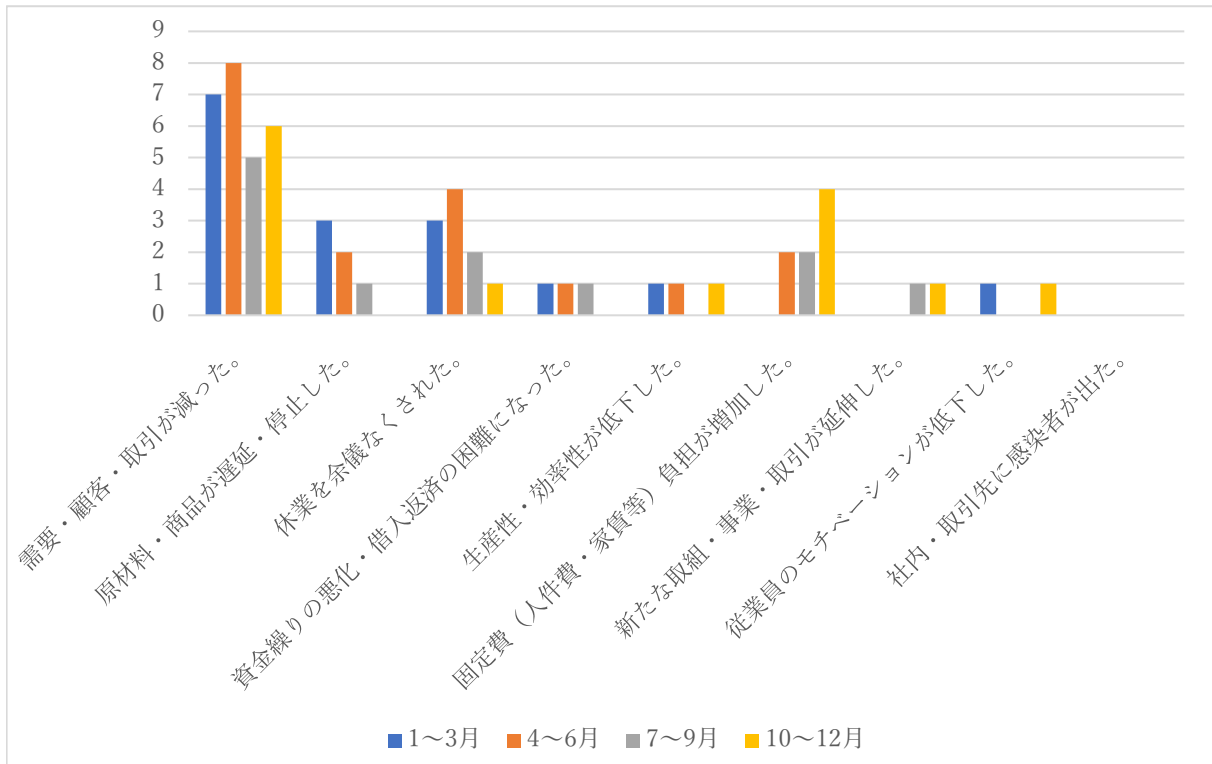


図3 コロナ禍の具体的な影響の推移



- 前回と比べると、建設業が著しく悪化している。また、小売業も著しい苦境が続いている。
- 建設業は、DI値は改善の傾向にあるため矛盾している。一方で、前回のDI値は著しく悪化しており、今回それが反映された可能性がある。建設業の場合、長期的なスパンで経営判断される傾向にあり、そのため実態と意識に時間差が生じていると推測できる。そのため、今回は経営状況が改善されていることも期待できる。
- 長引く経営状況の悪化により、固定費負担が増している様子が窺える。

以上